

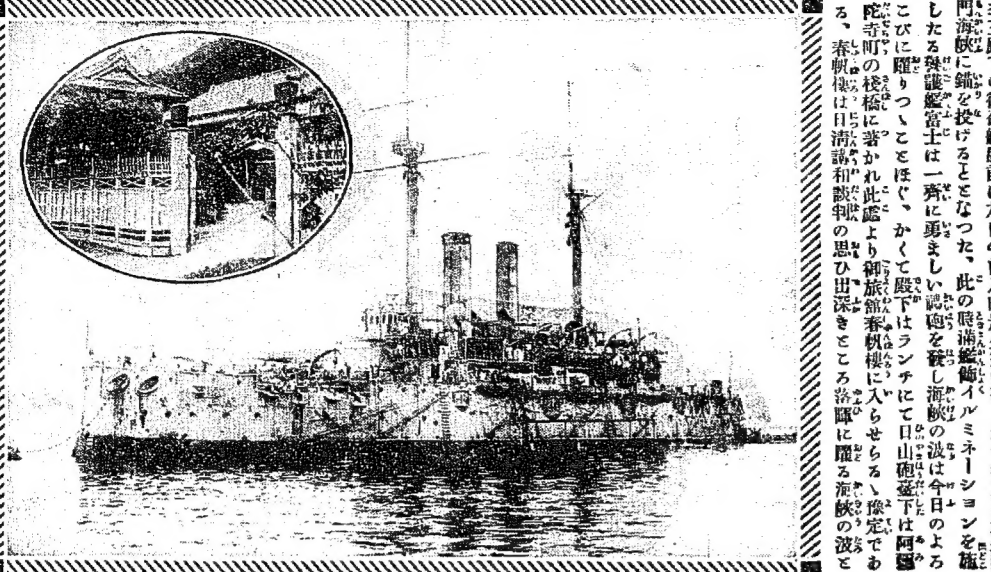
朝鮮の女

優美な女学生の服装

● 学校服を其の儘家庭服に
● 新文藝の教育を興へた其の女性美は、
● 女学生の服装を其の儘家庭服に
● 女学生の服装を其の儘家庭服に

富士と春帆樓

● 富士と春帆樓
● 富士と春帆樓



不正漁者捕縛

● 不正漁者捕縛
● 不正漁者捕縛

旭川兵營焼失

● 旭川兵營焼失
● 旭川兵營焼失

鯖大漁

● 鯖大漁
● 鯖大漁

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

盗賊は恠んな家を覗く

● 盗賊は恠んな家を覗く
● 盗賊は恠んな家を覗く

朝鮮の鳥

● 朝鮮の鳥
● 朝鮮の鳥

生活に困難

● 生活に困難
● 生活に困難

取れは憂し取らねば物の數ならず捨
べきものは可矢なりけり、彼の足利
次郎左衛門の云ひに、如く君に仕へん
より生涯浪人をして安樂に世の中を
過したいと云ふ思召でございます、
其内に十人隊になつて天晴なる武士
となりましたが、父忠長の代に仕て居
ます三宅宅兵衛田村半次大といふ
兩人を伴ひて松平右衛門大夫の屋
敷を立出で湯島天神下に屋敷がござ
いました大權宗桂の許へ御出になつ
た此宗桂といふ人は將棋の名人でござ
います、長七郎は將棋を好みます
る處から宗桂の許へ来て將棋の燈古
をしてお在ななる、半蔵ほどお在に
なつたスルと此屋敷内で紛失をした
物がある、それは何だといふと將軍
家より拜領の龍田川の戦艦並に金十
百兩紛失いたしましたそれで家内中の大
喧嘩はならん、當家を立退らうと宇
一子は天竺浪人何れを歩かうとも
支はない、未だ京阪兩地を見れこ
故是より東海道筋を上り京阪の兩
を見物いたす、宇一それが宜しう
を言つた、長「兩人供いたせと仰せ
して其儘湯島大權宗桂の許を立出
して笠邊御門に入り日本橋を渡り
通りを品川を指してお出になつた
頃しも夏のことでございます、長
郎君は大和町の染帷子素脚紋附を
し紗のお羽織を召して黄金作りの
小を帯び、三宅宅兵衛田村半次
兩人は諸麻の帷子に大小を帯し、
々雪駄草履穿たであるから途中にて
鞋を求めて穿替へ、笠を冠つてス
道急ぎで参りましたの、八ッ山下から品川宿の入口へかゝ

東京ドラッグ商會

磨園 大

[illegible]

色が白くなる

藥を飲むでもつけても
きかぬ方は當院々長洋
行研究に於ける最新潔
白化粧品を試みるべし

尚醫院に於て實地美容術に用ひて効力多きは已に世人の知る處なり
高にさびそばかすしみ薬やせる藥良
な毛生劑拔毛止毛拔劑くぜ毛の藥毛
書送呈本院は行商せしむす詐欺漢御注意東京駿河台東東京美容院

京城南山町二ノ四六 (三越合宿所上)

内科小兒科
婦人科眼科

一 元 堂 醫 院

電話 壹二四番 小山 亨

大日本大阪高津

昔も
今も

能功
効能で賣れる

遊上を引下げ候通と云ふレ
迷惑其他商毒を下す

ひまのちの

三番五元振替派九七三

伊之七家長兵衛

內科
胃腸病科
診察時間九時迄
石川醫院
電話 二二七九
九二九
本町一丁目
京

登錄商標

安住かとり線香

例年の通り
最品券附
拾兩買へば
壹兩無代進呈

輸出品は英米露支南洋
西班牙印度阿の諸國を
御計文の御御指定を請ふ

織出品
華駝紙筒 新裝特許線香立附
十二把入及十把入
湯卷形 大中小三種

製品種類左の通りに候
内地向
美駝紙筒 最品付 定價
十二把入 金三十錢
湯卷形 大 十六時間持 金廿八錢
全 中 十二時間持 金十五錢
全 小 十二時間持 金十錢

及び店頭の處ろ到
す寶販てに屋物売

町田雪隠北限大
房藥大住安
037大ニ西大津 番メニノ後見理電

貯蓄預金 元金百圓ニ付日步壹錢三厘金
壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社
社
十八銀行京城支店
京阪黃金町電話四三番五八〇番
銀貯金口座京城八一四番
龍山出張所
龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利
ニ取扱可申候

京
城
報

日韓聯合の大案あり、新政朝鮮に施かれてより日本、既に大皇帝
三道、山河其の面目を革め、平々蕩々、の治化を土に治く、朝鮮の民
が日本の國民と一體と爲れる今日に當り、李王殿下が、我が 天皇
下皇后陛下の御機嫌を伺ひ奉り、兼て王世子殿下、東上日本、の御
に對する感謝の爲め、愈々日本を以て景城を出発せられ、日本に御
遊覧あると聞かぬは、日韓兩土の一大福音として、吾人が滿腔の誠意に
捧げて其行を送らざるを得ざる所也。

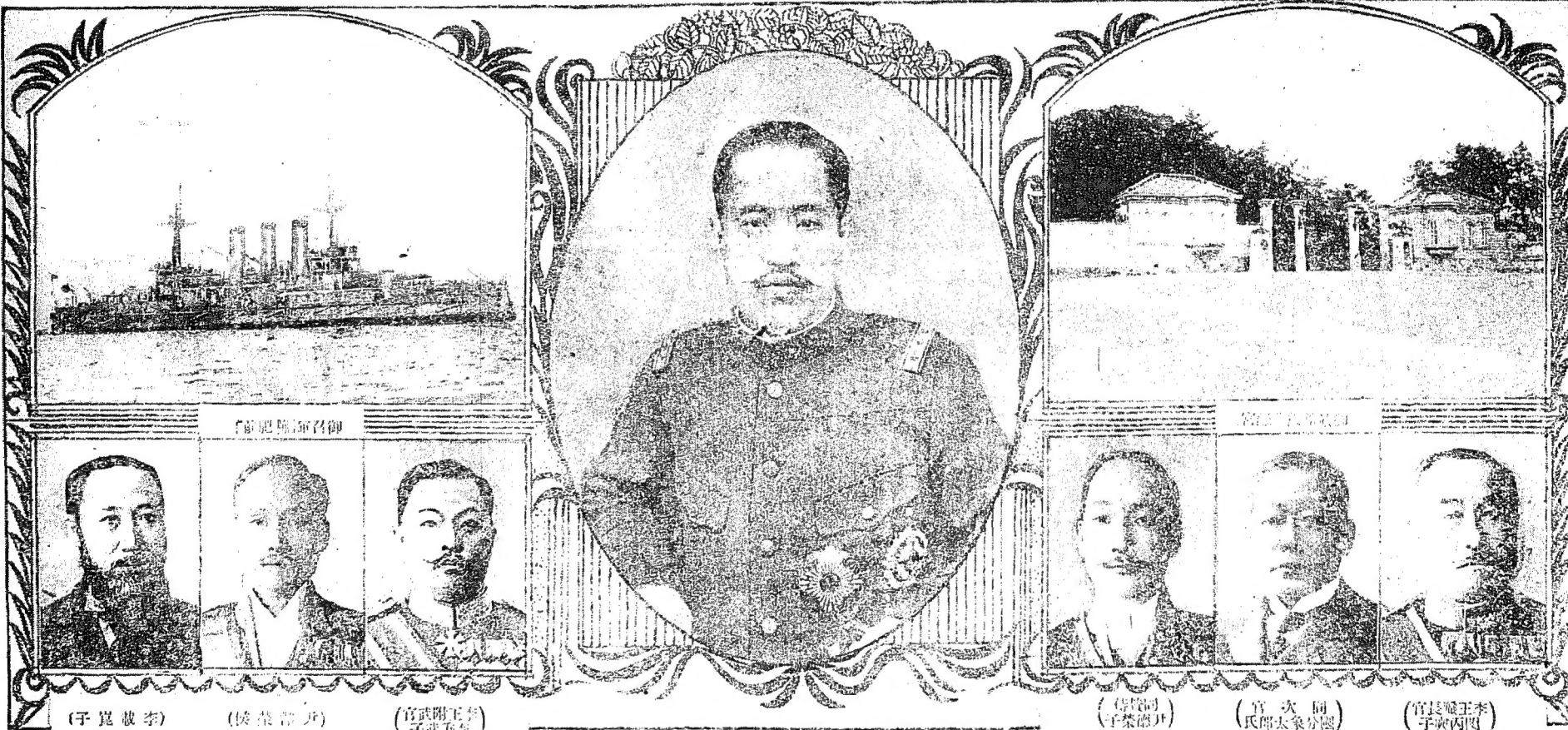
抑も李王陛下に其の書公族は、我が天皇陛下恩澤の下に、皇族の禮遇を賜はり、其の手紙をして榮譽を被賜し、永へに寵光を享けしむること爲り、我が皇室と向ひく萬世無窮ならむこと、疑ふべくもあらず。今則ち李王陛下に、陛下主仁の實意を體し、安遠の聖訓を賞ひ、福して大正の親政を賀せむが爲に、日本に御渡航あらせらるるは、抑も亦偶然ならず謂ふべし。

吾人の仄かに承はる處に據れば、陛下東上の舉は多年の御抱望にして、日韓併合の際にも、天機奉伺として、御渡航相成る筈なりしも御都合ありて沙汰止まり爲り、殊て又御即位の大典に参列あらせらるゝ御希望なりしも、同じく中止の巴可からざるに依りしは、陛下の深く遺憾に思召せらるゝ所なりと云ふ。福して今や李王家典範の酒に御定せられむとするあり。且つ又王世子陛下には去月陸軍士官學校を卒業せらるゝ御志を以て、李王家王太子殿下には御鑑戒の事に内定あらせらるゝ御台なるより、李王陛下に之を機として我が皇室に對し、感戴の意を表せむが爲に、御渡航あらせらるゝこと爲りしは實り李王家の爲に其の康寧福祿を増進するのみならず、日韓統一、日韓同化の爲に新時期を畫するの動機ならむと吾人の信じて疑はざる所也。

今上陛下と共に密に案議を擧ぎ、朝鮮の体感を捻念あり給ふこと吾人が鯁人として感戴する所なり。且つ陛下に日韓併合以前、東宮殿下にて御渡航の御志、李王陛下と御對面ありて御協議の間なるに於て、我が皇室が十二分の御御意を以て陛下を御款待相成るは勿論。

一般の日本官民も亦陛下の一行を歡迎するに躊躇せざるべきは、疑ふ所れず。

顧ふに日韓上古の歴史より云へば、兩國皇族の互に相往來せし事は確たることと爲ふべしと雖も、而も李王家族の五に相往來せし事は、渡航は破天荒の舉として、吾人は陛下の御美斷を歡迎し、率ると同時に、日韓統一の前途の爲に、其の一行の一路平安を祈らざらむと欲するも得ざる也。



家庭繪本文庫

[illegible]

大正六年六月號
(定價貳拾五圓
郵稅二錢五厘)

1

總督の於ける

地方巡閱、奠都博覽會に朝鮮館、漢江架橋工事、

祝
察
の
雑

感 本田勸業模範場長
上文學博士

米の趨勢と

獨逸の染料工業に就て………
字野中央試験所技師

正六年度地方

力費豫算 ○大正水利組合の事業進
學校 ●平安南道行政區域名稱一覽

發行所 大阪

對朝鮮貿易○四月中貿易○三月中
五年の米實収高○苗木の梱包据置

成績大正

大正五年の蠶種製造 大正五年
五年優良家蠶繭の販賣及移出 繭

關する調査
地學生生徒

○遞信事業概況○四月中鐵道運輸
及兒童身長體重胸圍に就て○普通

の取締及其
ける辯

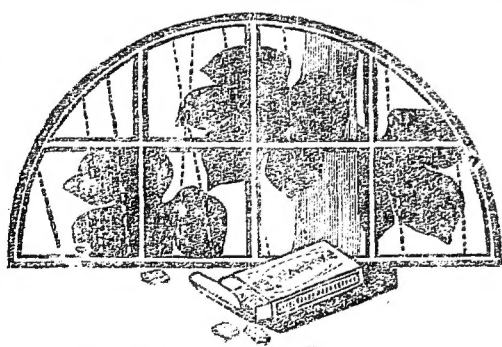
の變性中毒者救護狀況
護士制度

新報叙任

辭令 統計 法令及通牒 判決例

斗店
一、朝鮮

各地の書店にて販賣す
ウツボヤ書齋



梅雨は日前

最も衛生的で最
消化よく常用とし
安心第一の菓子

三吉
書
註
意
物
ル
キ
ヤ
メ
ル
水
練

▲輸移入狀況　輸移入貿易に在りては(一)米價騰貴の折納自然米及滿洲粟の輸入を誘致せる結果米に六萬三千餘圓、粟に十八萬九千餘圓を増加し、前月來活羅せし内地綿糸布界は當月に入上更に一段の活況を呈せしを以て其の急移移入引き續き盛にして細綿糸に三十二萬一千餘圓、金市類に二十四萬九千餘圓、日本本類に十八萬三千餘圓を差増し更に支那麻布は産地不出來の爲め價格騰貴せるのみならず山來の關係に於來入荷不振なりしも當夏季の切迫

萬事安協して區域から票數まで大略當て儼めて互に相攻伐する事を防いで居るそれだけに龍山の邊界界は目醒くない一種の消滅が充ちて居る」とはそれがしの説し此の頃では京城の方からドシ、切込んで行く高山山奉行君などは大分龍山で得票が有るといふ事だ其他小杉藤入君なども京城の方の形勢を窺つて大に龍山に前けて秘密通函をやつて居るとの事だ此の外に其れも手筈を延ばして京城から龍山に出征して居る候補者も少くない之れには流石に龍山黨も

所謂元兇を逮捕せん

萬事安協して區域から票數まで大略當て儼めて互に相攻伐する事を防いで居るそれだけに龍山の邊界界は目醒くない一種の消滅が充ちて居る」とはそれがしの説し此の頃では京城の方からドシ、切込んで行く高山山奉行君などは大分龍山で得票が有るといふ事だ其他小杉藤入君なども京城の方の形勢を窺つて大に龍山に前けて秘密通函をやつて居るとの事だ此の外に其れも手筈を延ばして京城から龍山に出征して居る候補者も少くない之れには流石に龍山黨も

[illegible][illegible]

70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538
 539
 540
 541
 542
 543
 544
 545
 546
 547
 548
 549
 550
 551
 552
 553
 554
 555
 556
 557
 558
 559
 560
 561
 562
 563
 564
 565
 566
 567
 568
 569
 570
 571
 572
 573
 574
 575
 576
 577
 578
 579
 580
 581
 582
 583
 584
 5

第一條 本誌の編輯處は之を北京誌
 鳳城に置き事務所並に發行所を大
 連溪路十八番地大連社に置く
 第二條 本誌は支那に關する諸般の
 事情を具體的に研究し發表するも
 のとす
 第三條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第四條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第五條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第六條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第七條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第八條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第九條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第十條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす

規 定

第一條 本誌の編輯處は之を北京誌
 鳳城に置き事務所並に發行所を大
 連溪路十八番地大連社に置く
 第二條 本誌は支那に關する諸般の
 事情を具體的に研究し發表するも
 のとす
 第三條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第四條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第五條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第六條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第七條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第八條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第九條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす
 第十條 本誌は毎月五日を發行期と
 し二百五十頁乃至三百頁とす

取次所 京城本町一七三大阪屋 ● 振京二四一五 巖松堂
 振京三〇〇番 ● 電話六六〇番
 京城本町一七三大阪屋 ● 振京二四一五 巖松堂

手販賣 會社 合資 京城日報社代理部

池田 幸雄

イゲダ小兒病内科醫院
 京城三越吳服店前へ入る旭町四丁目 電話 (醫院) 一三三四番 (自宅) 八八〇番

米澤大火火災保險 北陸一
 其々の損害を破れるものゝ如く總社
 寄約白鳳園に對し東京火災の七十件
 七萬圓(一萬圓再保險)共同火災の
 四五萬圓見當を初め日本火災 泰
 興火災等と同じく續續火災等に次ぎ



東海の天に憧憬して

李王殿下今日しも御出發

東海の名は、今も昔も、天下の士に慕はれる。李王殿下は、今日しも、東海の名に、憧憬して、御出發の途に、上られた。殿下は、東海の名に、憧憬して、御出發の途に、上られた。殿下は、東海の名に、憧憬して、御出發の途に、上られた。

王世子御出迎

式部次長檢分

王世子殿下は、今日しも、御出迎の式に、出席された。式部次長は、殿下の御出迎に、檢分された。殿下は、今日しも、御出迎の式に、出席された。式部次長は、殿下の御出迎に、檢分された。

近松尊定師

近松尊定師は、今日しも、御出迎の式に、出席された。近松尊定師は、今日しも、御出迎の式に、出席された。近松尊定師は、今日しも、御出迎の式に、出席された。

金塊を種に

三千圓を捲上

金塊を種に、三千圓を捲上した。金塊を種に、三千圓を捲上した。金塊を種に、三千圓を捲上した。

軍用列車の正面衝突

機関車粉砕 重傷者三名を出す

軍用列車の正面衝突。機関車粉砕。重傷者三名を出す。軍用列車の正面衝突。機関車粉砕。重傷者三名を出す。

漢江に溺死體

漢江に溺死體。漢江に溺死體。漢江に溺死體。漢江に溺死體。漢江に溺死體。

怒りあふ一日

入り亂れての混戦

怒りあふ一日。入り亂れての混戦。怒りあふ一日。入り亂れての混戦。怒りあふ一日。入り亂れての混戦。

七日の盛況

七日の盛況。七日の盛況。七日の盛況。七日の盛況。七日の盛況。

過去の罪

過去の罪。過去の罪。過去の罪。過去の罪。過去の罪。

あざ

あざ。あざ。あざ。あざ。あざ。

皮膚病専門

皮膚病専門。皮膚病専門。皮膚病専門。皮膚病専門。皮膚病専門。

あざ

あざ。あざ。あざ。あざ。あざ。

あざ

あざ。あざ。あざ。あざ。あざ。

板平浪釘洋鋼鐵洋

板平浪釘洋鋼鐵洋。板平浪釘洋鋼鐵洋。板平浪釘洋鋼鐵洋。板平浪釘洋鋼鐵洋。板平浪釘洋鋼鐵洋。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

吉田

吉田。吉田。吉田。吉田。吉田。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

金野春根

金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。金野春根。

松田竹の島人作

A black and white illustration of a woman in a kimono sitting and looking towards a man in a patterned robe who is standing and looking down at a small table with a vase and a bowl. The woman is on the left, seated, wearing a kimono with a dark pattern. The man is on the right, standing, wearing a robe with a light-colored pattern. Between them is a small table with a vase and a bowl. The background is plain.

「旅行のついで」 義朋

饗宴の灯にみづゝし若櫻
眠むに縁まで立つや風蕩る
若楓便所手拭新なり
彼の山に日洗を待ちて埒みなり
丘の人太く尙現るの顔に草
芽はれつ蚊火に草鞋を解きに
露れて著く蒲は今しも蚊遣哉
吾が爲め部屋に運ぶや蚊遣哉
香を見て袖に伏す大や麥畑
大木の根に横くや市日人
日中に蜂吸り入るや花の薔

[illegible]

「何かに荷物でも持つて往つたらうか。」
「誠信が、宛も心配らしい顔付で訊くご、お豊は斯しやかに、膝へ兩手を重ねて、
「妾は何處も變だと思ひましたから御荷物を御持ちに爲つたかと、老爺爺さんに訊きますと、大きな御鞭を一箇御持ちに爲つたさうでございます御鞭を御持ちに爲つたと思へば、直ぐに御歸りに爲る御意で、御出懸に爲つたのぢやないかと存じましたか何れ何んとか東京から御便りがあるだらうと御待ち申したんでございませうけれど、二日経過つても三日経過つても、何んの御便りもございませぬものですか、旦那様へ書簡を差上ましたのでございます。」
「然うか。」
「いね別段何様にも住らつしやいせんでございました。」
「誰れも来ん……然うか」と誠信は考慮へながら言つて、
「では家出す前に、何處かに出掛けたいやうなことはなかつたかね。」
と問ふと、凝視とお豊の顔を見「示度でございしたね」とお豊が
西洋料理 アイスクリーム
お市 東京第一番 露軒を南原町角
電話 二五七二番 カフェータイガ

[illegible]

新發見の點に於て

い好^いてれ優^すのとビノとリノく^なめ類^るに他^た
粉^る白^お一^しカ一^し木

治共病萬老禾生長

拜唐各位秘宝御清健之臣等賀候者**高麗人夢**に萬病回春の靈劑即ち人參を健康ならしめ**精力増進**、**補血保氣**其効果を奏する事迅速確實なるは今日に至る迄各需用者諸氏及び各醫學博士に於て無語問答する所なり是等神速を要せずと雖も元來の**高麗人夢**は支那にて多し此を需用する**高麗人夢**を尊重する一例を採ぐれば支那の北方にては普通**高麗人夢**に金銀の裝飾を期へ之を鎖にし我邦の時計の如く前に下げ茶又は水を飲む時は必ず一度此を渡し又飲む者は一毎毎に陳金をなして若干の**高麗人夢**を購求し此の常に一村共同の井中に浸置する等秘舉に違あらず是れ**高麗人夢**は**人身**を不老回春萬病共治の効能あるを信するが爲めなり昔日は**高麗人夢**の需用者極めて少數にして僅かに支那人の需用に止りしも今日に至りては廣く世に普及せられ諸配人慕精、**高麗人夢**料末等種々の名稱を付し各需用者に買留されつゝあり然れども

其原料は高麗人蔘其物なれば効能に付ては何等の差無し認て是等の商人は高麗人蔘農作者即ち弊會等より買取賣却するものなれば極めて高價なるに付弊會は深く此を憂ひ雷川者諸氏をして頗る廉價にて此靈藥を得せしんと欲し一方には高麗人蔘の耕作に勉め一方には左記の所に販賣店を開始し遠近雷川者諸氏の便宜を圖り極めて廉價に迅速に提供せんを希くは多少に不拘一應御試用被下度。右御案内旁御勸告由上候 早々

試みられよ

一刷毛て蛇の五脚毛に驚ろ

最新刊

[illegible][illegible]

日本郵船
朝鮮郵船

本館 電話九一九二
代辦所 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一

本館 電話九一九二
代辦所 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一
支店 東京市丸の内區丸の内二丁目一

三洲共同汽船出帆
要港大連行 開船必行時分
會下山丸 六月十三日午後入港
六月十四日朝十時出
阿波其國船式會館
本明四丁目三番
仁利代理店 野口商會
元山代理店 山口商會
京城取次店 河村運送店

船釜山出帆廣告
和神丸 六月二十日午後五時出帆
立神丸 六月二十日午後五時出帆
和神丸 六月二十日午後五時出帆
立神丸 六月二十日午後五時出帆
和神丸 六月二十日午後五時出帆
立神丸 六月二十日午後五時出帆

宗任丸 六月廿六日午後十時出帆
宗任丸 六月廿六日午後十時出帆
宗任丸 六月廿六日午後十時出帆
宗任丸 六月廿六日午後十時出帆
宗任丸 六月廿六日午後十時出帆
宗任丸 六月廿六日午後十時出帆